

大里 普及だより

〈〈認定農業者向け情報誌〉〉

発行 埼玉県大里農林振興センター 農業支援部
熊谷市久保島 1373-1
TEL:048-526-2210 FAX:048-526-2494
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>
E-mail k262210@pref.saitama.lg.jp

17号



埼玉県マスコット
「さいたまっち」

農婚イベント「泥んコン♡ふかや」 を開催しました！

1 「泥んコン♡ふかや」を開催！

3月28日（土曜日）、泥んコン♡ふかや実行委員会と大里農林振興センターが共催し、農婚イベント「泥んコン♡ふかや」を開催しました。

参加者は深谷市を中心とした青年農業者16人と農業に興味がある女性16人で、深谷市内で農作業体験や地元野菜を使った料理を楽しみました。

2 男女二人一組で農作業体験

参加者が男性と女性で二人組になって、きゅうりの収穫体験とトラクタの試乗を行いました。

トラクタの試乗では、男性のアドバイスで女性が安心して運転していた様子でした。

女性参加者からは「初めての農作業を丁寧に教えてもらえてよかった」と好評でした。



運転前に男性からアドバイス

3 おいしい野菜をみんなで堪能

農作業体験の後には、イタリア料理店のシェフの指導のもと、男女協力して石窯でピザを焼き、シェフの作った深谷ねぎ等の地元野菜をたっぷり使った料理を一緒に堪能しました。

参加者はすぐに打ち解けた様子で、会話も弾み、充実した出会いの場となったようです。

（技術普及担当 青年農業者育成担当）

今こそ農業経営の法人化を！

1 法人化を進めた動機は

- ・後継者や若い人への経営継承を考えている。
- ・経営規模の拡大を予定している。
- ・雇用労力を活用したい。
- ・加工分野を導入し、多角的な経営もしたい。

2 家族経営から法人経営への流れ

- ①「なぜ法人化するか」、法人化により「いつ、何を、どのように変えるのか」等、具体的なビジョンを家族が納得するまで話し合いしましょう。
- ②法人の形態、経営方針、事業・収支計画、資産の継承等、法人の骨格を決めましょう。
- ③定款作成、農地の権利取得等、法的な手続きを進めましょう。

3 法人化のメリット

主なメリットは、次のとおりです。

- ・経営者の意識改革が促進される
- ・信用力の向上
- ・有能な人材の確保
- ・所得が大きい場合、税の軽減
- ・制度資金融資枠の拡大
- ・相続対策

特に、家族経営と大きく異なることは、経営と家計が分離され、経営主や法人で働く者に報酬、給与が支払われることです。

4 農林振興センターの支援体制

センターでは、意欲ある担い手の経営発展を支援するため、相談窓口を設置して経営・税務、各種手続きのスペシャリスト（税理士、社会保険労務士、行政書士、デザイナー等）による個別相談を行っています。

今、あなた自身が頭の中で描いている構想を個別相談を通して具体化してみませんか。相談は無料です。お気軽に御相談ください。

（新規就農・法人化担当）

経営に役立つ農業制度資金の紹介

「農業制度資金」とは農業者の皆さんの生産活動に必要な資金のなかで、県や市町が利子補給や助成を行う資金です。ここでは、認定農業者の皆さんが活用できる主な農業制度資金を紹介します。

農業近代化資金

農業を営む方や農業に関わる団体が、施設や農機具の取得、家畜の購入、果樹植栽、小規模な土地改良などを行うときに借りることができる資金です。

1 融資機関 県内各JAなど

2 主な使い道

- ・ 農業用施設（ハウス、加工施設など）の建設、購入、改良、復旧
- ・ 農業用機械（トラクタなど）の購入
- ・ 果樹、茶の植栽又は育成
- ・ 小規模（事業費1,800万円まで）な農地の改良、造成、復旧

3 貸付限度額

個人	法人
1,800万円	2億円

4 償還期間

- ・ 認定農業者 15年以内（うち据置7年以内）
- ・ その他 15年以内（うち据置3年以内）

5 認定農業者に係る特例利率と融資率

認定農業者は、農業制度資金の通算貸付残高が、個人1,800万円、法人3,600万円までは、農林水産長期金融協会からの利子助成により、その他の担い手より低利で融資を受けられます。

認定農業者は、事業費に対し100%まで借入可能です（通常は80%）。この特例は貸付額が個人1,800万円、法人3,600万円まで適用されます。

ただし、貸付額が上記を超える場合には、その超えた部分は通常の融資率(80%)となります。

農業経営基盤強化資金(スパーL資金)、経営体育成強化資金

農地を取得する場合等に利用できる、償還期間が長く、借入金額が大きい長期資金です。

1 融資機関 日本政策金融公庫

2 主な使い道

- ・ 農地の購入、農地の改良、復旧
- ・ 農業用施設（農作業場、ハウス、加工施設など）の建設、購入
- ・ 農業用機械（トラクタなど）の購入

- ・ 果樹、茶、家畜の導入又は育成

3 貸付限度額

資金名	対象者	貸付限度額	
		個人	法人
農業経営基盤強化資金	認定農業者	3億円	10億円
経営体育成強化資金	その他担い手	1億5千万円	5億円

4 償還期間

- ・ 農業経営基盤強化資金
25年以内（うち据置10年以内）
- ・ 経営体育成強化資金
25年以内（うち据置3年以内）

5 金利負担軽減措置

農業経営基盤強化資金が「実質無利子化となる金利負担軽減措置」は、平成27年度も実施。

対象者は、「人・農地プラン」で中心的経営体として位置付けられた方、農地中間管理機構から農地を借り受けた方です。

農業改良資金

技術・作物・加工分野の新しい取り組み（農業改良措置）を行う場合に利用できる全期間無利子の資金です。

1 貸付対象者

エコファーマー、農商工連携促進法及び6次産業化法の認定を受けた農業者等

2 融資機関 日本政策金融公庫

3 主な使い道

農業改良措置に関する計画の実施に必要な資金で、以下のいずれかの取組に関するもの。

- ・ 新たな農業部門（従来扱っていない作目、品種への進出）、新たな加工事業の開始
- ・ 農畜産物又はその加工品の新たな生産方式の導入（新たな技術・取組を導入して品質・収量の向上やコスト・労働力の削減を目指す場合）や新たな販売方式の導入

4 貸付限度額 5,000万円(法人1億5千万円)

5 償還期間 10年以内（うち据置3年以内）

※ 一部12年以内（うち据置5年以内）の特例あり
(新規就農・法人化担当)

水稻の今後の管理について

6月24日気象庁発表による向こう3か月の予報において、7～9月の気温は「平年並」確率が40%、「低い」または「高い」確率がともに30%となっています。今後の気象情報には十分注意し、今後の管理をしっかりと行いましょう。

飼料用米の、水田活用の直接支払交付金の交付条件は、農産物検査に合格し、地域の標準単収を確保することです。



1 水管理

- 高温障害の軽減には根の活性維持が重要です。
- 農業用水は水利権により取水量、取水時期ともに制約があることから、かけ流しは行わず、有効に利用にします。

(1) 中干し

無効分げつの抑制や健全な根の維持のため、中干しを行いましょ。

田植え後30日頃を目安に、有効茎数確保後、田面に小ひびが入る程度、歩いて足跡がつく程度を目安に実施します。

その後は根の活性を保つため、間断かん水とします。

(2) 出穂期前後・登熟期間

穂肥施用後は湛水状態を保ち、出穂期前後約7日間は深水管理を実施します。穂揃い後は、間断かん水とします。

なお、気温が高く、高温障害が懸念される時の入水は、田面温度を下げるために、可能であれば夕方以降に行いましょう。

(3) 落水

早期落水は外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えます。最低でも出穂後30日間は土壤水分を保ち、完全に落水する時期は収穫の約10日前とします。

2 穂肥

- 葉色の低下は高温障害の危険信号です。
- ほ場をよく観察し、葉色の低下が見られる場合は適正な穂肥を実施します。

適正な穂肥は、食味を損なうことはありませんので、生育診断（葉色等）に基づいた穂肥を適切に実施しましょう。

特に、肥料切れで葉色が極端に低下した後の穂肥では葉色が戻るまでに時間がかかり、稲体の消耗が激しくなることにより外観品質の低下を招きます。

<主な品種の施肥例>

品種名	移植期	基肥量 窒素成分 /10a	穂肥	
			施用時期	施用量 窒素成分 /10a
キヌヒカリ	6月23日	5kg	7月29日頃	2kg
彩のきずな	6月23日	5kg	7月23日頃	2kg
彩のかがやき	6月23日	5kg	7月30日頃	2kg

（穂肥の施用時期は農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当の出穂期平年値より算出しました。）

3 カメムシ類の防除

- カメムシ類による斑点米に注意しましょう。

昨年、カメムシ類が多く発生しました。今年もカメムシ類による斑点米の発生に注意しましょう。

(1) 水田周辺の除草時期

出穂期前後の除草は、斑点米カメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂2週間前以降は行わないようにします。

(2) 薬剤の防除時期

出穂期～乳熟期（出穂後10日頃）に防除します。

4 適期収穫

- 高温時は登熟が進みます。
- 刈遅れ等により胴割れが発生しやすくなります。このため、気象予報を参考に適期収穫に努めましょう。

（技術普及担当 作物担当）

露地野菜の夏期の栽培管理

<アブラナ科野菜の育苗～定植期の管理>

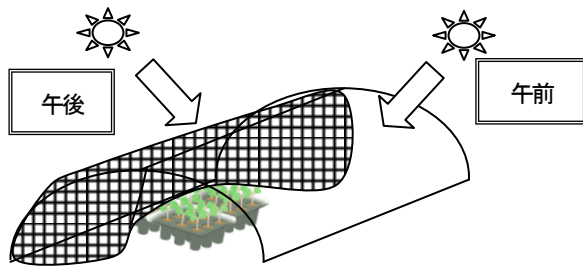
7～8月は各種アブラナ科野菜の育苗・定植期に当たります。この時期は、高温・乾燥による苗のしおれや生育遅れが懸念されるため、遮光やかん水が必要になります。また、生育初期の害虫による食害はその後の生育に影響が大きいので、防除の徹底を心がけましょう。

1 苗の遮光

- (1) 午前中は光を十分に当てて光合成を促進させ、午後は遮光して直射日光を避けましょう。
- (2) 苗の徒長防止のため、ハウス内の風通しを良くしましょう。

【ハウスやトンネルの遮光例】

西側と北側に遮光資材を掛ける(下図)



2 かん水

- (1) 育苗期は、早朝にたっぷりかん水を行う。日中しおれが見られたら、少量のかん水をします。
- (2) 定植時は、動噴等による株元かん水を行います。
- (3) 定植後に全く降雨がない場合には、5～7日おきに2～3回程度、株元かん水やチューブによるかん水を行います。

3 害虫防除

- (1) 育苗期には、ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）、コナガ、アオムシ、アブラムシなどが発生します。防虫ネットによる被覆などで害虫の侵入を防ぎましょう。

農薬散布は、は種時から定植時の粒剤散布や定植時の苗のかん注等を組み合わせます。

- (2) 8月下旬以降は、育苗期の害虫に加え、ハスモンヨトウなどのヨトウムシ類、オオタバコガなどの発生が多くなります。

定植後2週間を過ぎたら、害虫や食害の状況を観察し、早めに薬剤散布を行いましょう。

<ねぎの栽培管理>

1 ほ場の排水対策

ねぎは、乾燥には強いが過湿には弱い野菜です。特に、高温条件下で湿害を受けやすくなります。



うね溝の端がほ場周囲の明きよにつながっている事例

雷雨、台風、大雨により滞水することが多いので、明きよによるほ場からの早期排水が大切です。（写真参照）

2 病害虫対策

近年、夏期の猛暑、大雨等により病害虫の発生が多くなっています。また、黒腐菌核病も連作ほ場を中心に年明けからの発生が増加しています。今から対策をとることが大切です。

(1) 定植ほ場の管理

- ①土寄せ時には粒剤を中心とした薬剤を施用し、各種病害の予防に努めましょう。
- ②ネギアザミウマは、高温、乾燥が続くと多発するので、定植期からローテーション散布します。
- ③気温が30℃を超えるとねぎの生育は停滞します。高温、乾燥時の追肥、土寄せや多量のかん水は、根の傷みや株の消耗を招き、生育が悪くなるとともに、病害の発生も助長するので避けましょう。

(2) 作付予定ほ場の準備

薬剤による土壤消毒を行います。薬剤処理後、ビニール被覆を約1か月程度続け、太陽熱消毒を併用すると効果が更に高まります。（写真参照）



土壤消毒後にビニールを被覆したほ場

花きの害虫と対策

花き栽培では、これからの季節、害虫の発生が多くなります。ほ場における害虫の発生に注意し、対策を行いましょう。

<害虫の発生時期と被害の様子>

1 ミナミキイロアザミウマ

多発時期: 7～11月

被害: 成虫が新芽を加害し、その展開葉が縮葉などの奇形葉になったり、葉表がケロイド症状になる。開花期に花弁を加害すると、花弁にカスリ状の痕が見える。



2 ミカンキイロアザミウマ

多発時期: 3～7月

被害: 新芽が食害され、その展開葉の葉表に、不定形のひっかき傷、ケロイド症状、網目状の傷が発生する。花では膜割れ直後から蕾の内部に侵入し、花弁を加害するので、花弁にカスリ状の痕が見える。トマト黄化えそウイルス(TSWV)、インパチエンスえそ斑紋ウイルス(INSV)を媒介する。



3 ヨトウムシ

多発時期: 5～6月、9～10月

被害: ふ化した幼虫が群生して葉を食害するので、葉が表皮だけを残して、透けて見えるようになる。その後、単独で、葉や花を食害する。



4 ハスモンヨトウ

多発時期: 8～10月

被害: ふ化した幼虫が群生して葉を食害するので、葉が表皮だけを残して、透けて見えるようになる。その後、単独で、葉や花を食害する。



5 シロイチモジヨトウ

多発時期: 8～11月

被害: ふ化した幼虫は新芽などの柔らかい部分に食入し、内部から加害するため、新芽が萎れたり、周りに虫ふんが見つかる。加害により、芯止まりとなることもある。中齢期以降になると、新芽付近の葉を内部からつづり合わせその中を食害するため、加害部分は表皮だけを残して、透けて見える。



6 シロオビノメイガ

多発時期: 8～9月

被害: 1枚の葉を巻いたり、上下の葉をつづり内部から食害するので、葉の一部が透けて見える。多発時には、葉が中肋や太い葉脈を残しただけの被害となる。蕾や花も内部から食害し、花は未開花になったり、虫ふんで汚れる。



<対策>

1 耕種的対策

- ・ほ場内外に不要な花は植えない。
- ・ほ場周辺やほ場内の除草を行う。
- ・卵塊や群生しているふ化幼虫の時に、補殺する。
- ・施設栽培では、ネット(1mm 目合い:アザミウマ類・シロオビノメイガ対策、5mm 目合い:他の害虫対策)を張り、成虫の飛び込みを防ぐ。

2 薬剤対策

- ・ふ化直後の幼虫や若齢期に薬剤を散布する。
- ・薬剤は、ローテーション散布を行う。
- ・ミカンキイロアザミウマとミナミキイロアザミウマと薬剤感受性が異なることもあるので、薬剤散布後には、効果の確認を行う。
- ・品種により、薬害が発生する可能性もあるので、初めて薬剤散布をする場合は、一部の株で試し散布を行う。また、高温時や夕方の薬剤散布は薬害を助長させる可能性があるため、できるだけ避ける。

トウモロコシサイレージのかび毒汚染を防ぐための対策と 自給飼料分析について

1 トウモロコシサイレージのかび毒汚染を防ぐための対策について

(1) 「かび」と「かび毒」とは

かび（真菌）は湿ったところに繁殖する黒かびや、パンなどに生える青かびが知られています。

一部のかびは、味噌、醤油などの製造に有効利用されますが、一方で、食品や飼料中で増殖し、これらを腐敗させたり、かび毒を作ったりするものもあります。かび毒とは、かびが作る化学物質のうち、人や家畜の健康に有害な影響を与えるものを言います。

(2) トウモロコシサイレージとかび毒

栽培・調製・貯蔵等の各段階で、不適切な管理がされた飼料用トウモロコシは、表1で示したような様々な種類のかび毒に汚染される可能性が高いことが分かっています。以下に、かび毒であるDONなどを作る赤かび病菌による汚染を防ぐための対策を紹介します。

表1 赤かび病菌が作るかび毒と家畜への影響

かび毒	家畜に対する主な影響
デオキシニバレノール(DON) ニバレノール	消化器障害(嘔吐、食欲低下、 下痢等) 免疫機能障害など
ゼアラノレン	繁殖障害(流産、不妊等)
フモニシン	白質脳軟化症(馬)、 肺水腫(豚)

(3) かび毒防止対策のポイント

①トウモロコシの品種選定

子実の先端が露出すると虫や鳥の食害を受け、赤かび病菌も侵入しやすくなります。

このため、先端が露出しにくい品種や倒伏しにくい品種を選びましょう。

②ほ場管理

赤かび病菌は、ほ場常在菌であるため、栽培環境から完全に除去することはできません。

このため、感染源をできるだけ減らし、毒の汚染リスクを除去することが重要です。前作でトウモロコシや麦類を栽培したほ場では、収穫残渣の除去や、土壌中への鋤き込みを行いましょう。

また、適正な栽植本数を守ることにより、倒伏や、かびの発生を防ぎましょう。

③収穫時

赤かび病菌に感染すると、DONは乳熟期頃から蓄積し、刈り遅れると増加する危険がありますので、必ず黄熟期に収穫しましょう。

④サイレージ調製・保管時

サイロの密封が不十分であったり、開封後に空気にさらされ、二次的に赤かび病菌に汚染されるとDONが増加する可能性があります。

バンカーサイロでは十分な倒圧や密封を行うほか、サイレージ取り出し後、速やかにシートで覆い、サイロへの空気や赤かび病菌の流入を防ぎましょう。ロールベールでは変形させないように、丁寧な取り扱いを行いましょう。

また、野生動物等を誘引させないように、サイロやロールの周辺にサイレージの残渣を残さないように注意しましょう。

⑤屋外でロールベールを保管する場合

ロールと土壌との接触部位に野ネズミ等の被害がある場合は、コンクリート上で保管する、ロールベールを50cm間隔で保管する、網目1cm以下の金網を敷き保管する等により被害を防ぎましょう。鳥害を受ける場合は、ロールベールの上50cmの高さに、50cm間隔でテグスを設置する方法が有効です。

2 自給飼料分析の申し込みについて

大里農林振興センターでは、畜産農家のほ場や河川敷等で生産された自給粗飼料の成分と、硝酸態窒素の測定を無料で実施しています。

ご希望の方は事前にご連絡ください。

(1) サンプルング時期（年6回行います。）

- ① 6月8日～10日 ② 7月6日～8日
③ 9月7日～9日 ④ 11月9日～11日
⑤ 1月18日～20日 ⑥ 2月15日～17日

(2) 採材方法

採材は、原則として大里農林振興センター職員が現地にて直接採材を行います。採材量は、サイレージで1kg、乾草で500g程度で、無償で提供させていただきます。

(3) 成績通知

結果は、約2週間程度で本人に通知します。ただし、硝酸態窒素が著しく基準を超えている場合は、速報します。

（技術普及担当 畜産担当）

農薬の新しい分類コードを活かした使い方

1 農薬の効き方を高めるローテーション防除

農薬の効果を高め、抵抗性を持たせないためには、数種の農薬のローテーションが有効で、実践している方も多いと思われます。最近、たとえ農薬の系統が違って、病害虫に対して農薬が効く仕組み（作用機構）が同じ農薬を連用すると抵抗性が増す（「交差抵抗性」という）ことが判ってきました。

（1）農薬の作用機構コードとは

農薬が効く仕組み別に分類したもので、世界農薬工業連盟が以下の組織を設立し、作用機構コード（以下「コード」という）を決めています。

- 殺虫剤抵抗性管理委員会＝IRAC
- 殺菌剤抵抗性管理委員会＝FRAC

作用分類は数字の番号で表示され、殺虫剤の場合、数字の後に系統を示すA等のアルファベットがつく場合があります。

例) 1A 1B 5 6 7C など

殺菌剤の場合、数字番号の他、同時に複数の作用機構に効く薬剤をMとしたものが加わります。

例) 1 2 9 17 M1 M11 など

一部の農薬には、このコードがラベルに表示されています。

なお、大里農林振興センターでは、作成した防除関係資料に可能な限り、コードを表記します。

（2）農薬の作用機構別のローテーションの考え方

作用機構の分類 IRACコード	殺虫剤名		系統
1A	○○○	⚡	カーバメート系 有機リン系 ピレスロイド系
1B	▽▽▽	⚡	
3A	□□□□	⚡	
28	×××	⚡	

ローテーション ①1A → 1B ×悪い例
②1A → 3A ○良い例

①1Aはカーバメート系、1Bは有機リン系の薬剤と異なる系統ですが、同じ「1」の分類の作用機構なので異なる数字の薬剤を選ぶ必要があります。

②数字の後のアルファベットが同じでも、数字が違えば別な作用機構なので組み合わせることができます。

コードが同じ農薬を連用しないことが大切で、混合剤には直前のコードと同じものを含む場合がありますので注意してください。

また、害虫の生態から、A剤→B剤の後にもう一度A剤を使用する場合、十分に期間をあけないと、結局は同じ個体に同じ農薬を散布してしまうことになります。

同じ剤を使用する場合、十分に期間をあけてから使用することが、抵抗性の発現を少なくするポイントです。

2 短期暴露評価により変更される農薬の使用方法について

短期暴露評価により、使用基準の登録が変更された、または変更申請中の農薬は下表のとおりです。

これらの農薬の使用に当たっては、変更登録前であっても、容器のラベルにある使用基準ではなく、各農薬メーカーのチラシやHP等で登録変更後の使用基準を確認してから使用してください。

また、農薬メーカーが作成したチラシが埼玉県農産物安全課のHPに掲載されていますのでご活用ください。

★登録変更された農薬（平成26年11月17日付変更）

成分	商品名
アセフェート	オルトラン、ジェイエース、スミフェート等

☆変更申請中の農薬（平成26年11月11日付申請）

成分	商品名
カルボスルファン	ガゼット、アドバンテージ等
ベンフラカルブ	オンコル、ジャッジ、オンダイアエース等

3 残留農薬スクリーニング検査

埼玉県では、消費者に安心して農産物を食べていただくために、県内の農産物直売所に出荷される県産農産物の残留農薬検査（スクリーニング検査）を実施し、結果を公表しています。

農薬のラベル表示をよく見て、適用作物、収穫前日数、希釈濃度等間違いのないように散布するとともに、風等による隣接した野菜への農薬飛散を防ぐようにしてください。

（技術普及担当 農薬安全担当）

普及指導員の配置の変更について

平成27年4月1日から、「花植木」、「畜産」、「果樹」を担当する普及指導員を農林振興センターに配置することになりました。